

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01290

研究課題名(和文)多言語ビジネス環境での共通語としての英語使用実態調査とグローバル人材育成教育

研究課題名(英文) Research on the realities of the use of ELF in multilingual business settings and implications for the development of global human resources

研究代表者

村田 久美子 (MURATA, KUMIKO)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・名誉教授

研究者番号：10229990

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の主な成果は、ビジネス現場での共通語としての英語(BELF)使用の理論的背景と既存研究理解の深化、アジアの多言語環境でのBELF使用の実態解明 - 企業や組織の種類、規模、グローバル展開の度合い、参加者、コンテキスト等が複雑に関係、多層で多様なコミュニケーション様相であることが判明、また質的詳細分析の重要さも判明 -、結果をいかにグローバル人材育成教育の一助にできるかの検討、これを広く共有、理解深化の為に国際ワークショップ開催や国内外学会での研究発表、出版等により、幅広い共有に努めていることにある。また、若手研究者の裾野の広がりにも寄与したことも成果の一つである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバル人材育成が奨励され始めて久しいが、ビジネスシープルの多言語環境での共通語としての英語(BELF)コミュニケーション実態を調査、これに基づき、多言語環境下のBELFコミュニケーションを見据えた言語(英語)教育はどうあるべきかを提言した研究はまだ殆どない点で本研究の学術的意義は深い。また、グローバル人材育成の一環として導入されることの多いEMI教育や言語(英語)教育の方向性を、特にBELF使用の実態を踏まえて明らかにし、真の意味でグローバル市民育成に対応できる言語(英語)教育及び言語教育政策・方針への具体的且つ実現可能な提案をすることの社会的意義も深い

研究成果の概要(英文)： The main results obtained through the current research are three-fold: deepening the understanding of the research field of English used as a lingua franca in business settings (BELF) and its existing research, investigating and revealing the actual conduct of BELF communication in Asian multilingual business settings, and sharing the results with researchers, practitioners, policy makers and business people through holding international workshops, conference presentations and publications. It has emerged that BELF communication is complex, multilayered and diverse depending on variables such as the size and types of companies and organizations, the degree of their global and local balance of work, contexts of communication and participants, etc. It has thus also been made clear that the detailed qualitative research like the current one is invaluable in investigating this kind of BELF situations.

研究分野：応用言語学、共通語としての英語(ELF)、ディスコース・会話分析、語用論、英語教育

キーワード：応用言語学 ELF 英語教育 ESP 社会言語学

1. 研究開始当初の背景

本研究開始の2019年は現在のグローバル化が進んだ世界での共通語としての英語(ELF)研究の本格的開始以来20年程経過の頃で、ELF研究が飛躍的に発展した時期でもあった。この頃よりELF研究は、特に多言語状況下でのELF使用実態解明に焦点を置くことが多くなり、ELFコミュニケーションも参加者の第一言語及び非言語手段を含めたあらゆる言語及び非言語資源を活用、円滑なコミュニケーションを図る側面が再認識され始めた(Cogo 2012, 2016, 2018; Hulmbauer & Seidlhofer 2013; Jenkins 2015, 2018; Mauranen 2012, 2018; Seidlhofer 2011, 2016, 2018, 及び Canagarajah 2013, 2018; Garcia & Li 2014; Li 2016, 2018 等も参照)。

研究代表者等による日本人参加のELFコミュニケーション実態調査でも参加者が多言語資源を自由に活用しつつ効果的、且つ自己のアイデンティティも表出しコミュニケーションしている実態が解明された(Lino & Murata 2013, 2016, Murata(ed.) 2016, 2018, Murata & Lino 2018, Murata, Lino & Konakahara 2019)。また、メディアでも日本人ビジネスピープルの海外派遣先の60%以上がアジアであり(日経新聞2016.7.18)、新卒採用の過半数がアジアの大学卒業生というIT企業の出現等が報告されている(日経新聞2018.10.2, 10.19)。このような状況下、増加傾向にある多言語多文化背景のビジネスピープル(BP)が働く職場で日本人BPが英語を共通語として使いながらどのようにコミュニケーションを図っているかを、多言語資源、談話・語用論的方略等の有効活用等の詳細も含め語用論・談話レベルでも分析、実態解明することは喫緊の課題とされていた。

このような中、本研究代表者は本研究開始前8年程、高等教育及びビジネス現場でELF研究を進めており、後者に関しては代表者及び分担者の卒業生を中心にEMI教育経験があるBPを中心にビジネス現場で英語を日々使っている方々の声をアンケート及びインタビューで集め、1)ELFコミュニケーション経験の有無が英語コミュニケーションへの姿勢に影響、2)仕事でのELFコミュニケーションの大部分がアジアのBPとの間で行われ、またグローバル化の中でのビジネス経験では、3)規範に基づく正確さよりビジネス相手とのコミュニケーションの成功、理解度の大切さが重要、大学教育でも多様性に触れる機会導入が大切だと説く回答者が多くいたこと等も判明した(村田他2018, Konakahara, Murata & Lino 2017参照)。また、H30年1月末にはタイ日本企業現地工場等を訪問、関係者のインタビューを実施、多言語多文化環境のビジネス現場でのコミュニケーションが職種、職務、外部との交渉必要性等により、(B)ELF、現地語、親会社の中心言語等の使用が多層且つ複雑に関係している点を把握した(Murata et al. 2018)。この調査により、多言語多文化環境下のELFビジネスコミュニケーション(BELF)詳細分析の必要性を強く感じた背景がある。

2. 研究の目的

本研究では主として以下3点を明らかにすることを目的とした。

- (1) 多言語多文化のアジアのビジネスピープル(BP)と日本人BPの英語を共通語とするビジネスコミュニケーション(BELF)の実態解明をアンケート及びインタビュー調査で実施、BPの認識レベルでのELFコミュニケーションの実態を明らかにする。
- (2) 上記(1)に加え、日本人とアジアのBPの実際のBELFコミュニケーションの実態調査の為、参与観察、録音、及び必要に応じ事後インタビューも実施、このデータを、コミュニケーションでの多言語資源、談話・語用論的方略の活用にも焦点をあて、質的に詳細分析、日本人BPと多言語多文化背景のアジアのBPとの(B)ELFコミュニケーションで、どのような方略が、どのように用いられ、円滑な(あるいはミス)コミュニケーションが行われているか、を明らかにする。(実態調査では、R1(H31,2019)年度にシンガポール、R2(2020)年度にタイ、R3(2021)年度に中国を予定*していたが、コロナ禍により、以下成果報告で詳述のように大幅変更となった。)(*想定外の事態等では調査順序変更等で柔軟に対応する。)
- (3) 上記(1),(2)の結果を踏まえてグローバル社会での多言語多文化背景のBPと共通語としての英語を使用したコミュニケーションを見据えた言語(英語)教育はどうあるべきか、言語教育へのELF的視点導入の可能性を探り、グローバル人材育成の一環として導入されることの多いEMI教育や言語(英語)教育の方向性を、特にELF使用の現実を踏まえて明らかにし、真の意味でグローバル市民育成に対応できる言語(英語)教育及び言語教育政策・方針への具体的且つ実現可能な提案をする。

3. 研究の方法

本研究では(1)アンケートやインタビューに加え、実際に(2)ビジネス現場で ELF を使って日常的に行われているコミュニケーションを体系的に録音、その特徴を会話・談話・語用論的分析等の手法を用い質的に詳細分析、加えて参与観察、分析等のエスノグラフィーの視点も取り入れ、(B)ELF コミュニケーションの実態を総合的に把握すると同時に、(3)この結果を言語教育にどのように活かすかを策定、国際研究会等の開催や学会発表、論文執筆、出版等で成果の共有にも努めた。

具体的に次の方法を用いてデータの収集及び、調査・分析を行なった。

- (1) 自由回答形式のアンケート調査とインタビュー調査をオンラインで実施
(主に R2 年度、R3,4 年度にも追加調査実施)
調査結果は詳細な質的分析。
- (2) ELF ビジネスコミュニケーション現場での実態録音調査及び事後インタビューと
詳細な談話・語用論的分析実施(主に R1 年度後半-R4 年度、以下最初の予定も含む)
(R2 年 1 月末、シンガポールデータ収集)
(R2 年 9 月、タイデータ収集*) *コロナ禍で 2 年実施を延期、状況が改善せず、中止。
若手(元留学生)BP インタビュー実施に変更。
(R3 年 5 月、中国データ収集*) *コロナ禍で 1 年実施を延期したが状況が改善せず、
データ収集先をシンガポールに変更後
R5 年 1 月末に実施。

この他、日本国内での日本人と多言語文化背景の BP とのコミュニケーション実態も
主としてインタビューで録音収集(代表者、分担者の卒業生 BP 等の協力を得て実施)。

- (3) 上記 (1)-(2)の結果を有機的且つ総合的に踏まえて、グローバルコミュニケーションに対応した ELF 的視点を取り入れた言語(英語)教育及び言語政策の在り方策定、及び国際シンポジウム開催、研究結果を纏めた報告書の作成と出版(R4年度以降)、国内外学会での成果発表等、広く研究結果の広報。

4. 研究成果

研究成果は主として、(1)ビジネス現場での共通語としての英語(BELF)使用の理論的背景とこの分野の既存研究の理解の深化、(2)特にアジアの多言語ビジネス環境での BELF 使用の実態解明、(3)その結果発表とこの結果をいかにグローバル人材育成教育の一助にできるかの教育的示唆(4)結果の教育的意義、及びこれを広く共有する為の国際ワークショップ開催や学会での研究発表の実施、(5)研究成果の出版等による、より広い共有、にある。また、このような学術活動を通し、(6)この分野の理解を深め、興味を持つ若手研究者や大学院生等の裾野の広がりがあったこと、も挙げられる。以下、順を追って、より詳細に説明する。

(1) 多言語ビジネス環境での BELF 使用の理解の深化

BELF という分野の理解の進化は、(B)ELF 分野で国際的に活躍する研究者を招聘、講演や国際ワークショップ開催による意見交換や今後の研究協力ネットワークの時間の確保等にて、より深められた。

国際研究会開催、招聘、特別講演等

R1(2019 年)年 11 月 第 1 回 JACET ELF 研究会国際ワークショップ

ドルトムント工科大学スザンヌ・イーレンライヒ教授を招聘(ビジネス現場での共通語としての英語(BELF)の第一人者)、多言語環境下での BELF コミュニケーションに関し基調講演をして頂くと同時に BELF に関するパネル発表にコメント、意見交換、参加者の BELF 理解の深化に貢献、同時に研究グループ内でビジネスデータの収集、分析に関し助言を頂き意見交換。

R4(2022)年 3 月 第 2 回 JACET ELF 研究会国際ワークショップ(オンライン開催)、ロンドン大学リ・ウエイ教授(多言語主義、translanguaging 等の理論に精通)に講演を頂き、また若手 BP をパネリストとして招待、BELF コミュニケーションの実態をオンライン上のパネルで話し合うと同時に、広く学生、研究者等と共有し、意見交換も行い、多言語ビジネス現場の現状の理解を深めた。

R4(2022)年 12 月 第 3 回 JACET ELF 研究会国際ワークショップ
(ハイブリッド開催(対面及び一部オンライン))

ロンドン大学アレシア・コゴ氏を招聘(R4 再繰越しの R2 招聘予算による)、コペンハーゲン大学のヤヌス・モーテンセン氏もオンラインで講演、お二人には多言語環境の中での ELF 及び BELF コミュニケーションについて理論とケーススタディに基づき、お話し頂いた。また、海外で長年活躍していらっしゃる日本人 BP 2 名にパネルに参加頂き BELF コミュニケーシ

ヨンの実態を紹介して頂くと同時に分担者を含む BELF の研究者の一般発表も実施、国内の多くの研究者と情報を共有し、BELF コミュニケーションへの理解を深めた。

R5(2023)年2月第4, 5回 JACET ELF 研究会国際ワークショップ

(対面開催、一部ハイブリッド)

ヤヌス・モーテンセン氏対面参加、デンマークの多言語環境の中での ELF コミュニケーションを前提とした教育に関し講演(R4 再繰越しの R2 招聘予算で招聘) また、

リ・ウエイ教授も対面参加、Translanguaging と intercultural communication に関する講演を実施 (R4 繰越しの R3 招聘予算で招聘)

同時にウィーン大学バーバラ・サイドルホフファー、ヘンリー・ウィドウソン両教授は予定通り R4 予算で招聘、それぞれ ELF と教育の主テーマの下、対面での講演をして頂くと同時に、最終日には「ELF とその教育的示唆」というテーマで招聘研究者4名をパネリストとして迎え、参加者と意見交換をし、この分野の更なる理解を深めると同時に情報を多くの参加者と共有した。

(2) アジアの多言語ビジネス環境での BELF 使用の実態解明の為の実態調査

多言語ビジネス環境での BELF 使用の実態解明では現地のビジネス現場での実態調査を以下のように実施 (及びコロナ禍による変更を) した。

R2(2020)年2月初旬にシンガポールを拠点とした日系企業でのビジネス ELF 使用実態を調査、ELF を使ったのビジネス現場での会議の参与観察と録音を行うと同時に、日系企業数社を訪問してインタビューも実施

コロナによる不測事態での予定変更等

R2 後半に予定していたタイの BELF 現場での実態録音調査は渡航制限等の為 R2 年度の実施は叶わず予算を R3, R4 年度へと2度繰越し、実施を計画したが、コロナ禍の種々の制限が想定より長く続き、またコロナ禍の影響で訪問予定現地企業の状況変化もあり実施不可。元留学生、若手 BP のインタビュー実施に変更。

R3(2021)1-3月 BP への自由回答形式アンケートとオンラインインタビュー調査実施

R3(2021)年4-5月 追加インタビュー実施

R3年5月 EMI (英語による授業) プログラム参加留学生で、卒業後日本で働く若手 BP の職場でのコミュニケーション実態調査をオンラインインタビューで実施

R3 年度後半に中国で予定していた BELF 現場での実態録音調査はコロナ禍で実施できず、R4 に予算を繰越したが中国のコロナ状況が改善せず、録音現場をシンガポールに変更、R5 年1月末に現地でのインタビュー調査を実施、データは詳細に質的分析を行い、一部を R5 年2月末に繰越実施した第4回 JACET ELF 研究会国際ワークショップで Murata, Iino & Ng 及び Iino, Murata & Terauchi で発表し、論文としても執筆中

R4 年 上述のようにコロナ禍で延期になっていた R3 年分の日本人と多言語使用背景を持つアジアの BP の BELF コミュニケーションの実態調査、録音を R5 年1月にシンガポールで実施。

実態調査に関しては、上述のようにコロナ禍により多くの変更を余儀なくさせられたが、柔軟に対応、概ね、予定通りのデータを収集することができ、多言語環境での多層的、且つコンテキスト、ビジネスタイプ、サイズ、参加者等でダイナミックに変化する BELF コミュニケーションの実態が明らかになりつつある。この分析結果は以下に詳述するように、学会発表、講演、論文執筆、編集本の出版等の形で、共有に努めている。

(3), (4) 学会発表、基調講演等 (研究代表者、分担者による研究成果分)

R1 年8月に MHB (母語・継承語・バイリンガル教育) 学会で村田が「バイリンガル/多言語環境の中での ELF を媒介とした教育」に関し基調講演を行うと同時に10月にソウルで開催された POA 学会にも招待指定討論者として参加

R3 年3月 村田が JACET 関東支部及び東洋大共催オンライン招待講演で「ELF」を媒介とする授業で WE と ELF を学ぶことの英語教育への示唆について講演

R3 年8月国際応用言語学会(AILA) (オンライン) で飯野&村田と村田&飯野として英語で発表その他、インタビューデータは村田、飯野を中心に質的分析を進めつつ、随時国際学会等の発表の準備をすすめている。

R4(2022)年7月 村田がBP アンケート結果に基づき、言語文化教育学会で「言語教育政策及び教育実践現場と言語使用実態との乖離」に関する招待講演、及びR5年2月に繰越で実施された第4、5回 JACET ELF 研究会国際ワークショップで、同様テーマで村田、小中原、石川を中心に英語で発表

R4年11月に第13回 ELF 国際学会のシンポジウムで Murata & Iino で、元留学生で、卒業後日本で働く若手 BP インタビュー分析結果の口頭発表、その他の分担者も同学会で発表した。この発表内容は国際学術誌に特集される予定になっており、Murata&Iino で論文として纏めている。

今までに収集のデータ分析結果の一部は、R5年2月末に、R2,R3年度延期分とR4年に予定していたワークショップを第4,5回 JACET ELF 研究会国際ワークショップとして合同で開催したことは既述したが、このワークショップで本研究結果発表の特別枠を確保、村田、小中原 & 石川；村田、飯野 & Ng 及び飯野、村田 & 寺内で3本データ分析に基づく発表を英語で行った。また、同ワークショップでは上述したが、コペンハーゲンからモーテンセン氏、ロンドンよりリ・ウェイ氏、ウィーンからサイドルホフナー、ウイドウソン両氏の4名の海外研究者を招聘、対面での講演をして頂くと同時に、最終日には「ELFとその教育的示唆」というテーマでこの4名をパネリストとして迎え、意見交換も実施、本科研グループの成果についてのコメント、意見交換も同時に行われた。

(5) 出版面

R1年9月に村田と分担研究者石川、及び小中原を編集者とし *Waseda Working Papers in ELF*、最終号、第8巻を発行、今後はより多くの研究者がアクセスしやすく、また投稿もできる形の電子ジャーナルとして2017(2016年 JACET ELF SIG 創設に伴い)に創設し、徐々に *Working Papers* からの移行を計画してきた *JACET ELF SIG Journal* に本科研グループのみではなく、その他のELF関係の研究者が研究成果を論文として投稿できるような体制を整えた。JACET ELF SIG 自体、前回、前々回のELFに関する科研によるメンバーとワークショップ等の参加者等を中心に、更に ELF 概念理解の深化及び研究発展を目指すと同時により恒久的な研究グループを立ち上げることを目標にH28(2016)年4月に大学英語教育学会(JACET)の研究グループ(Special Interest Group - SIG)として設立したもので、本科研グループが中心になり、運営等に関わっている。これに伴い、国際ワークショップも前回、前々回科研までの早稲田ELF国際ワークショップという名称から JACET ELF SIG 国際ワークショップと変更、より包摂的な研究会へと発展している。

R4年12月、R2の実態調査結果(主としてアンケート部分)は詳細な質的分析後、Murata, Konakahara & Ishikawa で *JACET ELF SIG Journal* に出版。

最後に編集本関係では、2020年7月ELFの研究方法与データ収集・分析に焦点を当てた村田の編著書がラウトリッジ社から刊行、現在、本科研(及び前回、前々回科研)研究の総まとめとして *ELF and Applied Linguistics* というタイトルで本を編集中で、2023年度中に同じく英国ラウトリッジ社より出版予定である。

(6) この分野の若手研究者や大学院生等の裾野の広がり

上記(5)で述べたこととも関係しているが、過去2回と本科研による研究活動の進展で、若手分担研究者のみではなく、JACETのELF研究会として発展した研究グループは多くの若手、中堅研究者の育成にも繋がり、現在ELFに関する博士論文を執筆している大学院生の数も増加しており、着実にELF研究の裾野が広がっているとと言える。

国内外における位置づけとインパクト

最後に国内外における本研究のインパクトであるが、上述のように、前々回、前回の科研費による研究を含め、本研究終了までの12年間に日本でもELF研究の裾野は確実に広がり、JACET ELF SIGの設立、SIGジャーナルの発行開始、この分野の研究をする研究者、院生の増加等、ELF研究の発展には目を見張るものがある。また、過去12年で合計13回の国際ワークショップ、シンポジウム開催(コロナ禍で一部延期及びオンライン開催)、4冊の国際出版社からの編集本出版(4冊目は2013年末までに刊行予定)で本科研グループの研究は国際的にも認められ、影響力のあるものとなっている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 16件／うち国際共著 5件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Murata, K., Konakahara, M., & Ishikawa, M.	4. 巻 6
2. 論文標題 Acceleration of diversity in business contexts versus prevalence of NES monolingual value in school contexts: Results from a BP questionnaire	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JACET ELF SIG Journal	6. 最初と最後の頁 29-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomokazu Ishikawa	4. 巻 5(1)
2. 論文標題 English as a multilingua franca and 'trans-' theories	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Englises in Practice	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomokazu Ishikawa	4. 巻 2
2. 論文標題 ELF-aware language teaching at the Center for ELF: Five guidelines	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Center for English as a Lingua Franca Forum	6. 最初と最後の頁 59-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯島優雅・渡寛法・渡辺敦子・寺内一	4. 巻 5
2. 論文標題 日本の学士課程EAPカリキュラム指標モデルの構築に向けて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 JAAL in JACET Proceedings	6. 最初と最後の頁 53-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川希美・山中司・山田政樹・三橋峰夫・三木耕介・小川洋一郎・内藤永・寺内一	4. 巻 5
2. 論文標題 コロナ以降の企業が求めるビジネスコミュニケーション力の変化 予備調査(プレアンケート調査とプレインタビュー結果から)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 JAAL in JACET Proceedings	6. 最初と最後の頁 45-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomokazu Ishikawa & Will Baker	4. 巻 1
2. 論文標題 Multi-, inter-, and trans-? 'Confusing' terms for ELF researchers	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Center for English as a Lingua Franca Forum	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 マズワナ紗矢子・渡寛法・山田浩・飯島優雅・高橋幸・金丸敏幸・寺内一・田地野彰	4. 巻 4
2. 論文標題 日本の大学におけるEAP教員を対象とした自己評価ツールの開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JAAL in JACET Proceedings	6. 最初と最後の頁 72-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村田 久美子	4. 巻 16
2. 論文標題 バイリンガル/多言語環境の中での(共通語としての)英語(ELF)を媒介とした教育(MI/E)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)学会 紀要	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomokazu Ishikawa	4. 巻 74(4)
2. 論文標題 EMF awareness in the Japanese EFL/EMI context	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ELT Journal	6. 最初と最後の頁 408-417
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomokazu Ishikawa	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 Global Englishes and 'Japanese English'	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Englishes	6. 最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mayu Konakahara	4. 巻 170
2. 論文標題 Single case analyses of two overlap sequences in casual ELF conversations from a multimodal perspective: Toward the consideration of mutual benefits of ELF and CA	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Pragmatics	6. 最初と最後の頁 301-316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 D'Angelo, J.	4. 巻 19
2. 論文標題 The Status of English as a Lingua Franca (ELF) and implications for the teaching of English in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Status Quaestionis	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村田久美子	4. 巻 -
2. 論文標題 「バイリンガル/多言語環境の中での(共通語としての) 英語(ELF)を媒介とした教育(MI/E)」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)学会 紀要』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Murata, K., Ishikawa, T., & Konakahara, M.	4. 巻 8
2. 論文標題 Introduction: ELF and Applied Linguistics - Broadening a perspective.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Waseda Working Papers in ELF (English as a Lingua Franca)	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iino, M.	4. 巻 8
2. 論文標題 Going Beyond EMI: Plurilingual-Multicultural Education as an LPP mechanism	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Waseda Working Papers in ELF (English as a Lingua Franca)	6. 最初と最後の頁 85-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 D' Angelo, J.	4. 巻 -
2. 論文標題 Book Review, "EIL Education for the Expanding Circle: A Japanese Model." By N. Hino.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Studies Review	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10357823.2019.1673927	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 D' Angelo, J.	4. 巻 21(2)
2. 論文標題 "Editorial." (on the ELF use of Japanese architect Shigeru BAN)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Englishes	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ishikawa, T. & McBride, P.	4. 巻 8(2)
2. 論文標題 'Doing justice to ELF in ELT: Comments on Toh (2016).'	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of English as a Lingua Franca	6. 最初と最後の頁 333-345
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jelf-2019-2026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ishikawa, T. & Jenkins, J.	4. 巻 5
2. 論文標題 'What is ELF? Introductory questions and answers for ELT professionals'	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Center for English as a Lingua Franca Journal	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計46件 (うち招待講演 17件 / うち国際学会 37件)

1. 発表者名 Murata, K., Konakahara, M., & Ishikawa, M.
2. 発表標題 English as a business lingua franca in multilingual settings: Teachers' and business people's attitudes in contrast
3. 学会等名 The 4th JACET ELF SIG International Workshop (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Murata, K.M. Iino and Ng, P.
2. 発表標題 BELF communication in Japan-based small local enterprises: Report on the results from Singapore data
3. 学会等名 The 4th JACET ELF SIG International Workshop (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Iino, M. Murata, K. and Terauchi, H.
2. 発表標題 BELF users in internationally-oriented Japanese elitist companies in multilingual settings: Report on the results from Singapore and Thai data
3. 学会等名 The 4th JACET ELF SIG International Workshop (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Murata, K. & M. Iino
2. 発表標題 Our gateway is your gatekeeper: different benefits and constraints EMI brings to diverse participants in ELF contexts
3. 学会等名 13th International Conference of English as a Lingua Franca (ELF13) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村田 久美子
2. 発表標題 言語教育政策及び教育実践現場と言語使用実態との乖離: ビジネスピープルと教員アンケート結果より
3. 学会等名 言語文化教育学会2022年度前期講演会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Junko Saruhashi, Masakazu Iino, Daisuke Kimura
2. 発表標題 A case study of language selection and language attitudes in an online nation-specific festival
3. 学会等名 Sociolinguistic Symposium 24 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tomokazu Ishikawa
2. 発表標題 Possibilities and constraints in telecollaboration: A pilot case study
3. 学会等名 61st JACET International Convention (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tomokazu Ishikawa, Miso Kim, Paul McBride, Blagoja Dimoski, Satomi Kuroshima, Rasami Chaikul, Yuri Jody Yujobo, & Ayako Suzuki
2. 発表標題 Developing a university-wide ELF-oriented ELT programme
3. 学会等名 13th International Conference of English as a Lingua Franca (ELF13) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石川 友和
2. 発表標題 ELFとトランス理論から英語教育を再考する
3. 学会等名 言語文化教育学会 2022年度後期大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tomokazu Ishikawa
2. 発表標題 English-Medium Education?: Towards English-within-Multilingualism as a Medium of Education
3. 学会等名 42nd Thailand TESOL International Conference 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Mayu Konakahara
2. 発表標題 Japanese university students' attitudes toward English: Before and after learning about ELF
3. 学会等名 Sociolinguistic Symposium 24 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mayu Konakahara
2. 発表標題 Tackling a Monolingual View of English among Japanese University Students through ELF-Informed Instruction: What, How, and Afterward
3. 学会等名 JALT Kyoto: Teaching Global Englishes (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Patrick Ng, C.L
2. 発表標題 Global Englishes in 3 Japanese universities: Beliefs & Pedagogies
3. 学会等名 The 13th International conference of English as a lingua franca (ELF 13) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Patrick Ng, C.L
2. 発表標題 Global Englishes in the Japanese EFL classroom
3. 学会等名 The British Association Applied Linguistics conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 寺内 一
2. 発表標題 ポストコロナとコミュニケーション形態の変化 ジャンルの重要性
3. 学会等名 JACET関西支部2022年度 第2回支部講演会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 寺内 一
2. 発表標題 ポストコロナとコミュニケーション ESPの視点から
3. 学会等名 2022年度JACET東北支部11月支部例会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hajime Terauchi, Hisashi Naito, Sayako Maswana
2. 発表標題 Changes in Business Communication Skills Required by Companies since the COVID-19 Pandemic: Results of a preliminary Questionnaire and interview surveys
3. 学会等名 3rd JACET ELF SIG International Workshop (国際学会)
4. 発表年 2023年

1 . 発表者名 Kimura, Daisuke. & Tsai, Aurora
2 . 発表標題 Uncovering the iceberg: Native speakerism as a manifestation of coloniality
3 . 学会等名 The 13th International Conference of English as a Lingua Franca (ELF 13) (国際学会)
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Kimura, D. & Matsumoto, Yumi
2 . 発表標題 Rethinking transience in and through English as a lingua franca: Contributions to sociolinguistics of globalization
3 . 学会等名 Sociolinguistics Symposium 24 (国際学会)
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Murata, K. & M. Iino
2 . 発表標題 The same university, different policies, differing perceptions and constraints among students from two different EMI contexts in Japan. Paper presented at the Symposium (S169) Tensions between monolingualism and multilingualism across university contexts Organized by Kuteeva, M., Hynninen, N. and Kaufhold, K.
3 . 学会等名 The World Congress of Applied Linguistics (AILA) 2021 (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Iino, M. & Murata, K.
2 . 発表標題 'Language policies and practices of MME (Multilingual- Medium Education) in Japanese higher education' Paper presented at the Symposium (S49) English medium education in multilingual university settings: from research to policies Organized by Smit, U. & Dafouz, E
3 . 学会等名 The World Congress of Applied Linguistics (AILA) 2021 (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1. 発表者名 D'Angelo, J.
2. 発表標題 World Englishes, Asian Englishes, Philippine English
3. 学会等名 University of Santo Tomas Graduate School/PhD in English Program (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Saruhashi, Junko and Iino, Masakazu
2. 発表標題 Multimodal discourse analysis of nation-specific festivals: Focusing on cyberspaces
3. 学会等名 Sociolinguistic Symposium 23 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomokazu Ishikawa
2. 発表標題 English as a Lingua Franca research in Japan as a ground for English-medium instruction
3. 学会等名 The World Congress of Applied Linguistics (AILA) 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomokazu Ishikawa
2. 発表標題 Reconceptualising intercultural and transcultural communicative competence
3. 学会等名 JACET 60th Commemorative International Convention (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomokazu Ishikawa
2. 発表標題 Towards transcultural ELT through telecollaboration
3. 学会等名 ETA-ROC 30th International Symposium and Book Fair on English Teaching (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Will Baker & Tomokazu Ishikawa
2. 発表標題 English as a multilingua franca and transcultural ELT
3. 学会等名 1st International Conference on ELF-Aware Practices for Inclusive Multilingual Classrooms (ENRICH-2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomokazu Ishikawa
2. 発表標題 Towards teaching English within multilingualism
3. 学会等名 56th RELC International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hajime Terauchi
2. 発表標題 ESP in Applied Linguistics in Japan and Beyond
3. 学会等名 The 4th Annual Conference of Asian ESP & the 9th Chinese National Symposium on ESP (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村田 久美子
2. 発表標題 'ELF' MIで'WEと ELF'を学ぶ：学生の意識変化は？ - 英語教育への示唆
3. 学会等名 JACET関東支部講演会・東洋大学共催企画（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯野公一
2. 発表標題 ポストコロナの英語コミュニケーション - 新たなアプローチの探求
3. 学会等名 日本英語コミュニケーション学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 D'Angelo, J.
2. 発表標題 World Englishes and related paradigms: Concrete ideas for the Classroom
3. 学会等名 Linguistic Society of the Philippines/DLSU Lecture Series（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomokazu Ishikawa
2. 発表標題 EMF awareness in ELT?
3. 学会等名 University of Southampton's Centre for Global Englishes Seminar（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mayu Konakahara
2. 発表標題 Transforming Japanese University Students' Attitudes towards English: The Impact of ELF-informed Academic Content Courses
3. 学会等名 The 3rd Workshop English as a Lingua Franca (ELF): Practices and Possibilities (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野上陽子
2. 発表標題 共通語としての英語(ELF)を介した内集団における連帯と多文化アイデンティティの構築 ことばの相互行為分析とナラティブ分析の経過報告-
3. 学会等名 関西学院大学法学部外国語研究室研究会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村田久美子
2. 発表標題 「バイリンガル/多言語環境の中での(共通語としての)英語(ELF)を媒介とした教育(MI/E)」
3. 学会等名 『母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)大会』(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Iino, M.
2. 発表標題 Language Policy and Practice in Japanese Higher Education from an ELF (English as a lingua franca) Perspective.
3. 学会等名 LPP (Language Policy and Planning) Conference 2019. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Iino, M.
2. 発表標題 Implementing ELF-informed language policy in Japanese higher education.
3. 学会等名 Asia TEFL 2019. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 寺内一
2. 発表標題 「内容重視の英語教育の理想と現実 ESP・CLIL・EMI・CBI の整理と 統合の可能性 」
3. 学会等名 大学英語教育学会九州・沖縄支部第31回研究大会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 マスワナ紗矢子, 寺内一, 高橋幸, 金丸敏幸, 田地野彰
2. 発表標題 「学習者視点を導入したEAPライティング技能評価ルーブリックの開発」
3. 学会等名 第203回東アジア英語教育研究会.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 D' Angelo, J. & S. Ike
2. 発表標題 English in Japan: The applicability of the EIF Model.
3. 学会等名 The 24th International Association for World Englishes Conference, (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 D' Angelo, J.
2. 発表標題 'EMI across the concentric circles in Asia: A Japan-situated case study.' Asian Contributions to WE Theorizing Panel.
3. 学会等名 The 20th English in Southeast Asia Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishikawa, T.
2. 発表標題 'How multilingual are ELF scenarios?'
3. 学会等名 The 1st JACET ELF SIG International Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishikawa, T.
2. 発表標題 'English as a Multilingua Franca in ELT: Beyond ideological monolingualism'
3. 学会等名 The 58th JACET International Convention (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishikawa, T.
2. 発表標題 'ELF awareness from a monolingual fiction to the multilingual reality'
3. 学会等名 The 12th International Conference of English as a Lingua Franca (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Konakahara, M.
2. 発表標題 Negotiating mutual understanding by disagreeing: An analysis of unmitigated disagreement in ELF interactions.
3. 学会等名 The 16th International Pragmatics Conference (IPrA2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計34件

1. 著者名 Murata, K	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 -
3. 書名 ELF and Applied Linguistics: Reconsidering Applied Linguistics Research from ELF Perspective	

1. 著者名 Murata, K.	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Wiley Blackwell	5. 総ページ数 -
3. 書名 ELF in Expanding Circle Societies: Focus on Asia. In B. Bjorkman-Nylen (Ed.) English as a lingua franca. Volume 6, K. Bolton (Ed. in Chief) The Wiley Blackwell Encyclopedia of World Englishes.	

1. 著者名 Satoshi Miyazaki and Masakazu Iino	4. 発行年 2022年
2. 出版社 SAGE Publishing	5. 総ページ数 -
3. 書名 Language Policy and Planning in Asia (SAGE Benchmarks in Language and Linguistics, 4 Volumes)	

1. 著者名 Tomokazu Ishikawa	4. 発行年 2022年
2. 出版社 SEAMEO Regional Language Centre	5. 総ページ数 16
3. 書名 Towards teaching English within multilingualism (In A. Pang, (Ed.), Equitable and inclusive language education: New paradigms, pathways, and possibilities), pp.2-17	

1. 著者名 Mayu Konakahara	4. 発行年 2023年
2. 出版社 De Gruyter Mouton	5. 総ページ数 245
3. 書名 Conflict Talk in English as a Lingua Franca: Analyzing Multimodal Resources in Casual ELF Conversations	

1. 著者名 Mayu Konakahara	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Candlin & Mynard ePublishing	5. 総ページ数 25
3. 書名 Case studies of two Japanese university students' attitudinal development and language use after ELF-informed instruction. In G. P. Glasgow (Ed.) Multiculturalism, language, and race in English education in Japan: Agency, pedagogy, and reckoning (pp. 156-181)	

1. 著者名 Patrick Ng, Tiina, M, Gregory, G.	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 14
3. 書名 Multilingualism in Global Englishes Language Teaching: Narrative Insights from Three TESOL Practitioners in Japan. In Raza, K, Reynolds, D & Coombe, C. (Eds.). The Handbook of Multilingualism in TESOL, pp.147-161.	

1 . 著者名 Murata, K.	4 . 発行年 2021年
2 . 出版社 Bloomsbury	5 . 総ページ数 18
3 . 書名 Teaching WE and ELF in EMI from an ELF perspective: a case study at a university in the Expanding Circle. In Y. Bayyurt (Ed.) Bloomsbury World Englishes, Volume 3, Pedagogies. 159-176	

1 . 著者名 D'Angelo, J.	4 . 発行年 2021年
2 . 出版社 Bloomsbury	5 . 総ページ数 17
3 . 書名 A Critical View of Globalization within the expanded role of EMI in Japan: An Emic Perspective. In M. Saraceni & Y. Bayyurt (eds.) Bloomsbury World Englishes (volume on Pedagogical Implications). pp. 208-224.	

1 . 著者名 D'Angelo, J.	4 . 発行年 2021年
2 . 出版社 Routledge	5 . 総ページ数 7
3 . 書名 Conclusion Chapter. In A.F. Selvi and B. Yazan (eds.) Language Teacher Education for Global Englishes: A Practical Resource Book. pp. 267-273.	

1 . 著者名 Butler, Yuko Goto and Iino, Masakazu	4 . 発行年 2021年
2 . 出版社 Springer	5 . 総ページ数 10
3 . 書名 Fairness in College Entrance Exams in Japan and the Planned Use of External Tests in English. in Lantaigne, B. Coombe, C. and Brown, J. (eds.). Challenges in Language Testing Around the World. Singapore: Springer. pp. 47-56.	

1. 著者名 Will Baker & Tomokazu Ishikawa	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 390
3. 書名 Transcultural communication through Global Englishes: An advanced textbook for students	

1. 著者名 Tomokazu Ishikawa	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 19
3. 書名 Translanguaging and English-within-multilingualism in the Japanese EMI context (In W. Tsou & W. Baker (Eds.), English-medium instruction translanguaging practices in Asia: Theories, framework and implementation in higher education), pp.39-57	

1. 著者名 飯野 公一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 6
3. 書名 「グローバル化によって日本での英語教育はどのように変わっていくのでしょうか」(第3章 日本での英語の受容と広がり) 杉野俊子監修、田中、野沢編 『英語とつきあうための50の問い』 pp. 66-71	

1. 著者名 Tomokazu Ishikawa	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 18
3. 書名 Rigour in ELF language attitude research: An example of conversational interview study (In K. Murata (Ed.), ELF research methods and approaches to data and analyses: Theoretical and methodological underpinnings), pp.258-275	

1 . 著者名 Gregory Paul Glasgow, Patrick Ng, Tiina Matikainen, Tomohisa Machida	4 . 発行年 2020年
2 . 出版社 Springer	5 . 総ページ数 24
3 . 書名 Challenging and Interrogating Native Speakerism in an Elementary School Professional Development Programme in Japan. In S. Houghton & J. Bouchard (Eds). Native speakerism: Its resilience and undoing,pp.189-212	

1 . 著者名 Yoko Nogami	4 . 発行年 2020年
2 . 出版社 Routledge	5 . 総ページ数 17
3 . 書名 Understanding the ELF Phenomenon through Narrative Inquiry: A Diary Study on Identities of Japanese ELF Users. (In K. Murata (Ed.), ELF research methods and approaches to data and analyses: Theoretical and methodological underpinnings),pp.241-257	

1 . 著者名 Murata, K.(ed.)	4 . 発行年 2020年
2 . 出版社 Routledge	5 . 総ページ数 298
3 . 書名 ELF Research Methods and Approaches to Data and Analyses: theoretical and methodological underpinnings	

1 . 著者名 Murata, K.(ed.)	4 . 発行年 2020年
2 . 出版社 Routledge.	5 . 総ページ数 18
3 . 書名 ELF research methods and different approaches to data and analyses: Introduction. In K. Murata (ed.) ELF Research Methods and Approaches to Data and Analyses: theoretical and methodological underpinnings	

1. 著者名 Murata, K., T. Ishikawa & M. Konakahara (eds.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Waseda ELF Research Group, Waseda University	5. 総ページ数 162
3. 書名 Waseda Working Papers in ELF(English as a Lingua Franca), Vol. 8	

1. 著者名 Murata, K., Iino, M., & Konakahara, M.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 23
3. 書名 Realities of EMI practices among multilingual students in a Japanese university. In J. Jenkins & A.Mauranen (Eds.), Linguistic diversity in international universities	

1. 著者名 Iino, M.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 24
3. 書名 Revisiting LPP (Language Policy and Planning) Frameworks from an ELF (English as a Lingua Franca). In Konakahara, M. and Tsuchiya, K. (eds.). Perspective in English as a Lingua Franca in Japan: Towards Multilingual Practices.	

1. 著者名 Terauchi, H. and Maswana, S.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer Nature Singapore Pte Ltd	5. 総ページ数 14
3. 書名 'System Thinking: An ESP Genre Approach' In Tajino, A. (Ed.) (2019) A Systems Approach to Language Pedagogy.	

1. 著者名 Terauchi, H., Noguchi, J. & Tajino, A. (Eds.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 206
3. 書名 Towards a New Paradigm for English Language Teaching: English for Specific Purposes from Asia and Beyond	

1. 著者名 Terauchi, H.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 11
3. 書名 'ESP Today' In Terauchi, H., Noguchi, J. & Tajino, A. (Eds.) Towards a New Paradigm for English Language Teaching: English for Specific Purposes from Asia and Beyond	

1. 著者名 Araki, T. & Terauchi, H.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 7
3. 書名 'Conceptualizing the Discourse Community' In Terauchi, H., Noguchi, J. & Tajino, A. (Eds.) Towards a New Paradigm for English Language Teaching: English for Specific Purposes from Asia and Beyond	

1. 著者名 Terauchi, H. & Naito, H.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 12
3. 書名 'English for Business Purposes (EBP)' In Terauchi, H., Noguchi, J. & Tajino, A. (Eds.) Towards a New Paradigm for English Language Teaching: English for Specific Purposes from Asia and Beyond	

1. 著者名 D' Angelo, J.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Multilingual Matters	5. 総ページ数 18
3. 書名 "From Learners to Users: Reframing a Japanese University Curriculum towards a 'World Englishes Enterprise' -Informed' English as a Medium of Instruction Model. In Fang, F. & H.P. Widodo, Critical Perspectives on Global Englishes in Asia: Language Policy, Curriculum, Pedagogy and Assessment.	

1. 著者名 D' Angelo, J.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 6
3. 書名 "Foreword", in Konakahara, M. & K. Tsuchiya (eds.) English as a Lingua Franca in Japan	

1. 著者名 Ishikawa, T.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 19
3. 書名 'Complexity of English as a Multilingua Franca: Place of monolingual Standard English.' In M. Konakahara & K. Tsuchiya (eds.) English as a lingua franca in Japan: Towards multilingual practices	

1. 著者名 Konakahara, M., & Tsuchiya, K. (eds)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 358
3. 書名 English as a lingua franca in Japan: Towards multilingual practice,	

1. 著者名 Konakahara, M., & Tsuchiya, K.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 23
3. 書名 Introduction: English as a lingua franca in Japan - Towards multilingual practices. In M. Konakahara & K. Tsuchiya (eds.) English as a lingua franca in Japan: Towards multilingual practices	

1. 著者名 Konakahara, M.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 28
3. 書名 From “English as a native language” to English as a lingua franca: Instructional effects on Japanese university students’ attitudes towards English. In M. Konakahara & K. Tsuchiya (Eds.), English as a lingua franca in Japan: Towards multilingual practice	

1. 著者名 Nogami, Y.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 25
3. 書名 Study abroad, identity, and attitude toward the English language. In M. Konakahara & K. Tsuchiya (eds). English as a Lingua Franca in Japan: Towards Multilingual Practices	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Waseda ELF Research Group https://sites.google.com/site/welfrg/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	飯野 公一 (IINO MASAKAZU) (50296399)	早稲田大学・国際学術院・教授 (32689)	
研究分担者	寺内 一 (TERAUCHI HAJIME) (50307146)	高千穂大学・商学部・教授 (32637)	
研究分担者	ダンジェロ J・F (D'ANGELO JAMES) (70340180)	中京大学・国際学部・教授 (33908)	
研究分担者	NG Patrick (NG PATRICK) (40454970)	新潟県立大学・国際経済学部・教授 (23102)	
研究分担者	石川 友和 (ISHIKAWA TOMOKAZU) (00826323)	玉川大学・ELFセンター・講師 (32639)	
研究分担者	小中原 麻友 (KONAKAHARA MAYU) (80580703)	神田外語大学・外国語学部・准教授 (32510)	
研究分担者	木村 大輔 (KIMURA DAISUKE) (00825523)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授 (32689)	
研究分担者	野上 陽子 (NOGAMI YOKO) (90733999)	関西学院大学・法学部・准教授 (34504)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 The 5th JACET ELF SIG International Workshop	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 The 2nd ELF SIG International Workshop	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 The 4th ELF SIG International Workshop	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 The 3rd ELF International Workshop	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 The 1st JACET ELF SIG International Workshop	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------